

保護者各位

平成26年10月31日

北海道小樽潮陵高等学校長
湯田 恭 丈

平成26年度 生徒による授業評価の実施結果について（ご報告）

霜降の候 皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解ご協力を賜わり、心よりお礼申し上げます。

さて、生徒による授業評価の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。これは、

- ① 生徒が、自らの学習状況を振り返ることで、よりよい学習習慣を身につける契機とする。
- ② 教員が、生徒の授業の受け止め方を把握することで、指導計画や方法の改善に活かす。
- ③ 学校が、教育活動に係わる情報を公開することで、地域に開かれた学校づくりを推進する。

ことを目的に、9月上旬に全校生徒を対象に実施したものです。

生徒が受けている全教科について、

- A 授業はわかりやすく進められていますか。
- B 授業を受けて、この科目に対する興味や関心、意欲が高まりましたか。
- C 授業を受けて、自分自身の学力や技能の向上を実感できますか。
- D あなたは、授業の内容がわかるように、できるように努めていますか。

の4項目について、

- 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

の四者択一で回答を求め、特に要望のある科目に対し、自由に意見を記述してもらいました。

自由記述は教科担任が目を通し、今後の授業に活かしていきます。

上記質問項目 A～D に対する学年毎の回答状況は次のとおりです。

1 学年

	H26	国語・数学・社会・理科・英語				保健体育・芸術・家庭			
	質問項目	1	2	3	4	1	2	3	4
1年	A 授業のわかりやすさ	36.3%	45.1%	15.8%	2.7%	44.7%	44.0%	10.0%	1.3%
	B 興味・関心・意欲の高まり	21.2%	44.0%	29.5%	5.4%	27.0%	42.2%	25.6%	5.1%
	C 学力・技能向上の実感	16.1%	46.3%	33.0%	4.6%	20.4%	42.0%	31.4%	6.2%
	D 授業を理解する努力	28.3%	54.4%	16.2%	1.2%	27.7%	50.1%	18.3%	3.9%

2 学年（文理別）

	H26	国語・数学・社会・理科・英語				保健体育・芸術・情報			
	質問項目	1	2	3	4	1	2	3	4
2年 文系	A 授業のわかりやすさ	35.4%	44.8%	16.8%	3.0%	40.5%	47.0%	11.3%	1.2%
	B 興味・関心・意欲の高まり	20.5%	44.3%	29.5%	5.7%	24.8%	43.1%	27.2%	5.0%
	C 学力・技能向上の実感	17.1%	40.2%	37.4%	5.3%	18.8%	44.4%	32.5%	4.2%
	D 授業を理解する努力	22.3%	51.1%	22.9%	3.7%	24.6%	49.8%	20.6%	5.0%

	H26	国語・数学・社会・理科・英語				保健体育・情報			
	質問項目	1	2	3	4	1	2	3	4
2年 理系	A 授業のわかりやすさ	34.3%	44.3%	18.4%	3.0%	41.2%	45.5%	11.3%	2.0%
	B 興味・関心・意欲の高まり	21.6%	44.3%	28.6%	5.4%	28.5%	46.2%	21.8%	3.5%
	C 学力・技能向上の実感	18.9%	45.5%	31.6%	4.1%	21.1%	47.7%	26.8%	4.4%
	D 授業を理解する努力	21.3%	55.0%	20.6%	3.1%	25.3%	49.0%	22.7%	3.1%

3 学年（文理別・コース別選択科目を含む）

	H26	国語・数学・社会・理科・英語				保健体育			
	質問項目	1	2	3	4	1	2	3	4
3年 文系	A 授業のわかりやすさ	39.8%	41.5%	15.3%	3.4%	48.8%	40.0%	9.4%	1.8%
	B 興味・関心・意欲の高まり	24.5%	42.3%	27.1%	6.1%	41.8%	31.2%	18.2%	8.8%
	C 学力・技能向上の実感	20.5%	42.3%	30.6%	6.6%	34.7%	33.5%	25.9%	5.9%
	D 授業を理解する努力	27.2%	46.5%	21.1%	5.3%	37.6%	40.0%	19.4%	2.9%

	H26	国語・数学・社会・理科・英語				保健体育			
	質問項目	1	2	3	4	1	2	3	4
3年 理系	A 授業のわかりやすさ	39.5%	37.3%	16.6%	6.6%	55.4%	35.1%	7.4%	2.0%
	B 興味・関心・意欲の高まり	29.3%	34.1%	19.9%	6.4%	53.4%	29.7%	12.8%	4.1%
	C 学力・技能向上の実感	28.5%	39.5%	23.2%	8.7%	45.3%	34.5%	16.2%	4.1%
	D 授業を理解する努力	33.7%	46.0%	16.0%	4.3%	52.7%	33.8%	11.5%	2.0%

各教科からの対応は次の通りです。

1. 国語科

○集計結果について

「授業のわかりやすさ」について、全学年平均で約8割が好意的評価を持っている。一方で「興味・関心・意欲の高まり」「学力・技術向上の実感」については低い評価となっている。予習による先行体験と既習事項をふりかえり発展させる学習から自己肯定感を高め、学ぶ意欲を高めていきたい。また、教材を通して先人の体験を学び、現在の学ぶ自分から将来の自己実現へと繋がる意識を持たせることにより、意欲の喚起を促したい。

○学力や技術の向上を目指して教科としてどのように取り組むか。

古典については、単語・文法暗記・読解力の養成に尽きる。単語・文法暗記については全体に定着が見られるようになるまで繰り返し小テスト、課題テストなどを行うと同時に、単元の中での実際の使われ方を理解させる。読解力の養成については、一つ一つの単元を丁寧に読み解き、他者に説明できるレベルまで理解させる。やみくもに多くの問題を解かせるだけでなく、丁寧に深く考え理解する作業を心がけさせる。

現代文は、速く正確に読む力を身につけさせる。客観的根拠に基づく要点箇所・表現上の工夫点を短時間で捉えられる読解力を養成する。斜め読みや段落の最初と最後の行だけを読むようなテクニックに走らず、全文をしっかり速く読み、なおかつ2度読みはしないように意識させる。

○自由記述欄での特筆すべき意見や要望とその対策

- ・板書に対する要望など、すぐに改善できるものについては実行したい。
- ・教科担任間の連絡を充分にとり、指導事項の焦点化を行うことで、学習のポイントを明確にする。

2. 地歴・公民科

○集計結果について

教科・担当者によるばらつきがあり、教科間で受験に対する必要度の濃淡はあるものの、授業計画の再点検は必要である。また、全体を通じて、項目 A、B に比べ、項目 C、D に対する評価が低い傾向にあるため、引き続き様々な工夫を重ねて生徒の興味関心と成就感を連結できるように努める必要がある。

○学力や技術の向上を目指して教科としてどのように取り組むか。

授業時数との関係で進度が厳しい現状にあるが、板書をしばって提示したり、説明する部分と書くだけの部分に分けたりするなど、教材の精選に努め、生徒が定期考査などで学力向上を実感できるよう助力すること、定期的に課題を配布して回収、解説し、授業のフィードバックを行うことにより、授業の理解を深めさせること、家庭でニュースに接する習慣のない生徒層が拡大している現状を考えると、授業に新聞報道を意識的に取り入れることなどを行っていきたい。

○その他

今回は自由記述のサンプルが少ないので教員側で考えて自己修正する必要があるが、板書の文字の大きさなど、具体的に改善できることから着手したい。

3. 数学科

○集計結果について

「授業のわかりやすさ」について、各学年とも7～8割が「そう思う」・「ややそう思う」と回答しており、

生徒の授業内容の理解という観点ではおおむね良好であると考えている。また、「学力・技能向上の実感」については7割前後、「授業を理解する努力」についても約8割の生徒が「そう思う」・「ややそう思う」と回答しており、生徒は地道に努力をしている様子が窺える。

また、例年同様「興味・関心・意欲の高まり」については3～4割が「あまりそう思わない」・「そう思わない」と回答しており、受験に対応した学力の形成と同時に、数学的な考え方の良さや数学の有用性等を体感できる授業づくりが課題と考える。

○学力の向上を目指して教科としての後期に向けた取り組み

生徒の学習に対する態度は真摯であり、また、授業に対する期待も高いと感じており、我々教員もそれに応えるべく、興味・関心を高める教材選びや教授法の研究等、一層の授業の充実に努めるとともに、確かな学力の定着に向け、質・量のバランスやタイミングを考慮した課題の提示等、継続的に取り組みたいと考える。

○その他（特筆すべき意見や要望への対応等）

特筆すべき意見や要望はなかった。

4. 理科

○ 集計結果について

「授業のわかりやすさ」、「興味・関心・意欲の高まり」については、概ねプラス評価が多かった。しかし、本人の「授業を理解する努力」の割合が高いのに比べ、「学力・技能向上の実感」が低くなっている傾向が見られる。努力しているのに学力向上の実感が持てないでいる現状については、今後、改善していかなければならない。努力する意思はあっても基本となる考え方が身につけていないと本当の学力に結びつかない。授業の中でこの点を重視して指導していきたい。一方、わからないことを徹底して考え抜くという姿勢が学力を伸ばすうえで大切であることから、生徒の主體的な学習の取り組みにも期待したい。

新課程になって3年目、理科の内容が旧課程より量・質ともに大きく増えており、3年間を見通した学習指導がより強く求められている。1年次の導入から3年次の受験対策まで、生徒の実態に合わせながらも、生徒の求める学力を身につけさせていく学習指導を常に行っていきたい。一部科目で進度に不安の声が生徒から出された。この点については、課外授業を行うなど対策を早急に取っていきたい。

5. 英語科

○1学年：コミⅠ・英表Ⅰともに「授業のわかりやすさ」「理解する努力」の高さに比べて「興味関心意欲の高まり」と「学力・技能の向上の実感」の数字が低い傾向が見られる。コミⅠでは文法語彙などの学習と併せてテキストの内容を重視した授業展開を、英表Ⅰでは文法学習に偏重せずにコミュニケーション活動を取り入れることにより「意欲」や「技能の向上の実感」を高めていきたい。

○2学年：コミⅡ、英表Ⅱともに概ね「授業のわかりやすさ」の高さに比べると「興味関心の高まり」や「学力・技能の向上の実感」の数字が低い傾向が見られる。生徒の興味意欲関心を高め、学力・技能の向上が実感できるような指導の工夫をしていきたい。

○3学年：3年生の英語については各科目とも「授業のわかりやすさ」の高さに比べて「興味関心の高まり」や「学力・技能の向上の実感」の数字が低い。今後受験対策の問題演習の時間が今まで以上に増えることになるが、その中でも一人ひとりの到達目標を意識させるなど英語の学習に対する動機づけを高め、学習成果が実感できるよう改善を図りたい。

6. 保健体育科

○集計結果及び今後の取り組みについて（体育）

「授業のわかりやすさ」、「興味・関心・意欲の高まり」については高い評価となっている。一方で、「学力や技能向上の実感」をあまり持てない生徒が各学年3割近くいるので、指導方法や授業内容等、改善に取り組みたい。

○集計結果及び今後の取り組みについて（保健）

「授業のわかりやすさ」では9割近くの生徒が評価しており、各担当者の創意工夫のたまものだと考えている。また、「興味・関心・意欲」の点では低い評価を得ているので、教材の精選や授業形態の工夫等、改善に取り組みたい。

○自由記述欄での特筆すべき意見や要望とその対策

個別の意見、要望については各担当者で検討したい。

7. 芸術科（音楽・美術・書道）

（音楽）

○ 集計結果

授業のわかりやすさ、興味関心の高まりについては昨年度より高い良い評価となっていますが、学力・技術の向上の実感や授業を理解する努力では少し気になる数値となっています。音楽では、歌唱・器楽・理論・鑑賞・創作などの分野において偏ることのない授業内容の展開を心がけて進めています。苦手な分野で意欲を低下させないよう指導方法の工夫をしていきたい

と思います。また、題材の練習方法について画一的にならず、変化を持たせて技術、表現に効果があるような指導を心がけたいと思います。

○ 学力や技術の向上を目指して教科としてどのように取り組むか。

上記で記述したように、各分野において得意分野を中心に自信を持たせた上で他の技術や表現へとつながっていけるような指導の工夫を実践できるよう努力したいと考えます。

○ 記述について

リズムの取り方についての記述がありましたが、具体的な内容がわからないので何とも答えようがありませんが、説明不足であったり説明方法が悪かった点があれば改善していきます。細部な点について常に指導の工夫を怠らないよう努力します。

（美術）

○ 集計結果について

・概ね「わかりやすい」という評価と判断していますが、実物や見本、映像などを可能な限り用いるなど、より具体的でわかりやすい授業を目指します。

・自分の手を動かして活動していく際に、「得手」、「不得手」や「今までの経験」の差が、「理解度」に影響すると考えられることから、状況に応じた適切な指導を行うよう心がけます。

○ 学力や技能の向上を目指して教科としての後期に向けた取り組み

・「学力や技能の向上」のみを目指す教科ではありませんが、技能の向上が制作への動機付けとなる場面もあることから、そのことを意識しつつ、授業改善に取り組んでいきます。

・作品完成後の「批評会」を充実させたり、完成した作品の廊下等への展示方法に工夫を凝らすなど、お互いの作品を鑑賞し合いながら、相互に刺激を受け合うことで、次の作品づくりへとつなげていきます。

○ その他（特筆すべき意見や要望への対応等）

・昨年度との授業形式の相違について

おそらく1学期に行った「グループ制作」のことを差していると思われます。これまで「個人での制作」が多かったと思いますが、今年度より取り扱う内容に応じて、「数人のグループによる制作」を取り入れることとしました。理由としては、①グループの中で様々な意見の交換を行う中で、一人では気が付かなかった発想や視点からの考え方が出来ること。②皆で意見交流させながら、より質の高い作品づくりが期待出来ること、などです。ただ、実際に授業を行ってみて、課題が明確になった部分もありますので、今後より目標の達成に向けた改善を行っていきます。

・教材費について

作品制作に係わって、材料費としてお願いしておりますが、毎年、年度末に決算を報告させていただいている通り、残額が出ない状態です。材料については、より安価なものを探しておりますが、価格の高騰などの影響もあり厳しい状況です。ご家庭には大変なご負担をおかけしまして恐縮ですが、今後、題材等の検討も含めて努力して参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

（書道）

○ 実技系の授業なので、なるべく手を動かして座学とは違った方向から脳を刺激できるようにと考えています。漫然と書くのではなく、自分のイメージを言葉にし、どう表現していくのかということを大切にしようということで授業を行ってきました。技術の向上が感じられるという項目が低かったので、来年度はもっと評価の観点を明確にして、毎時間の授業を行っていきたいと思います。

8. 家庭科

○ 家庭科は日常生活に関する内容を学び、生活する力をつける科目である。小中学校において基本的な内容について学習してきているため、授業の理解度は高めである。しかし、学力・技能向上という点ではあまり感じる事ができていない。学力・技能の向上は、教科の特性上、実験実習などの体験を通して定着することが期待できる。前半期は実験実習の時間があまりとれなかったため、向上の実感が薄いと思われる。生徒たちがもっと日常生活に関心を持ち、知識・技術を高めて、身につけることができるように授業内容を精選して、学習と実技のバランスを考えながら進めていきたい。

9. 情報科

○ 「授業のわかりやすさ」は「そう思う・ややそう思う」併せて87.5%でまずまずだったとは思いますが、その割に「興味・関心・意欲の高まり」が73.8%、「学力・技能向上の実感」が67.0%、「授業を理解する努力」が73.8%と低調だった。受験に必要なでない教科の難しさはあるが、テストの有無に関係なく生徒に意欲的に学んでもらえるよう授業で扱う題材等を引き続き検討していく。